

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17008

建築物名称	(仮称)ヨークマート川崎野川店
建築主	株式会社ヨークマート 代表取締役 大竹 正人
建築物の所在地	川崎市宮前区野川858番地1外14筆
設計者氏名、建築士事務所名	秋腰 健夫 青木あすなろ建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,817.61m ²
用途	物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了年月	平成31年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

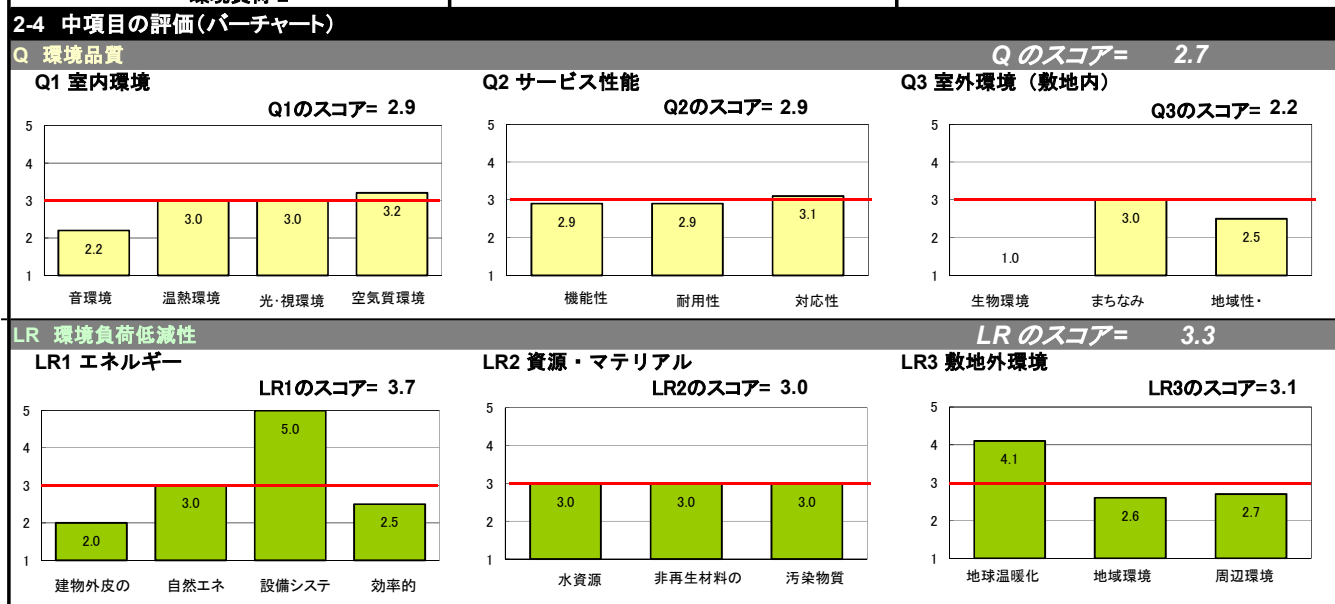
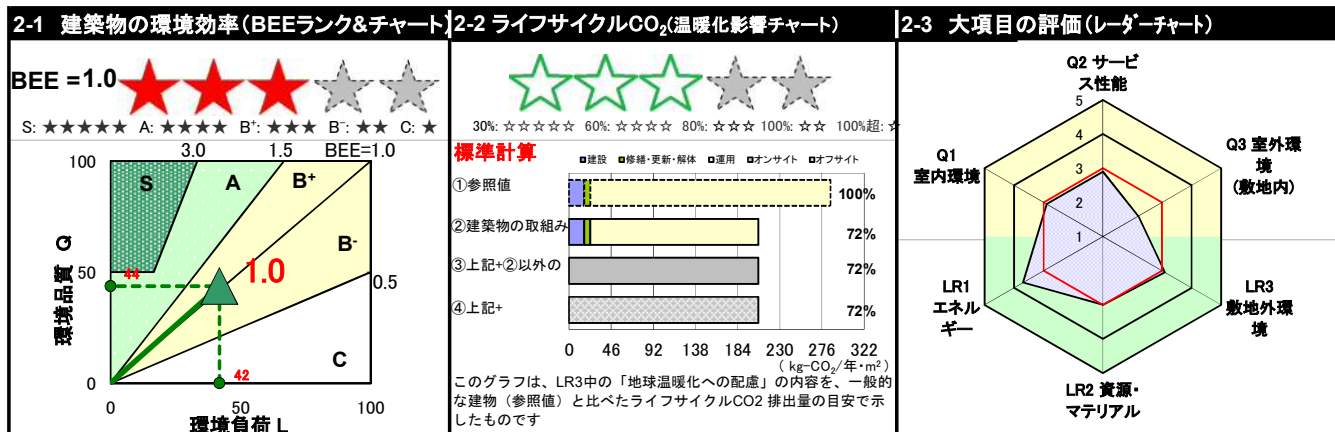
CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		17008
建物名称	(仮称)ヨークマート川崎野川店	階数	地上2F	
建設地	川崎市宮前区野川1858番地1外14筆	構造	S造	
用途地域	準住居地域・第1種低層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	4,745 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年3月 竣工	評価の実施日	2017/5/	
敷地面積	5,291 m ²	作成者	青木あすなる建設(株)	
建築面積	2,690 m ²	確認日	2017/5/	
延床面積	2,818 m ²	確認者		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	1.利用者の利便性の為計画した駐車場は、極力建物の屋上とし、敷地の緑化に配慮した 2.低層住宅地の住環境の保全・向上に配慮し、1階をメインとする一部2階建の計画とし低密度の土地利用を維持した。	1.8/4.3	2.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	LOW-Eガラスを使用	0.5/0.8	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。 空地率49%	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.92 BEI=0.70 運用管理の組織、体制、管理方針が計画されている。	3.7/5.0	3.7
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	主要水栓に節水コマなどが取り付けられている。	2.8/4.7	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)における木材、鉄骨又はコンクリートの評価基準方法で等級1相当	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.4/4.0	3.0
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	管理用車両、荷捌き用駐車施設の確保	0.3/0.4	3.9
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している 49%	0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.92 BEI=0.70 建物で消費量を年間に渡って把握し、消費原単位等を用いてのベンチマーク比較が行えるようにした	3.7/5.0	3.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.3	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI=0.92 BEI=0.70	3.7/5.0	3.7

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体					
	G	W	R	H													
Q 建築物の環境品質													2.7				
Q1 室内環境													2.9				
1 音環境													2.2				
1.1 室内騒音レベル													1.0	0.40	-	-	
1.2 遮音													3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能													3.0	1.00	3.0	-	
2 界壁遮音性能													-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-	-	3.0	-	
1.3 吸音													3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境													3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御													3.0	0.50	-	-	
1 室温													3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能													3.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性													3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御													3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式													3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境													3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用													3.0	0.50	-	-	
1 昼光率													1.0	-	-	-	
2 方位別開口													-	-	1.0	-	
3 昼光利用設備													3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策													-	-	-	-	
1 昼光制御													1.0	-	-	-	
3.3 照度													1.0	-	-	-	
3.4 照明制御													3.0	0.50	-	-	
4 空気質環境													3.2	0.25	-	-	3.2
4.1 発生源対策													3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質													3.0	1.00	-	-	
4.2 換気													3.0	0.30	-	-	
1 換気量													3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能													3.0	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮													3.0	0.50	3.0	-	
4.3 運用管理													4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視													3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御													5.0	0.50	-	-	

負圧に保たれた喫煙ブースあり

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
1 機能性				2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性			-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観		売場天井高3.6m	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース			2.0	0.33	-	-	
3	内装計画			1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		基準階高5.29	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.1031	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり				2.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		2.0

LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー									3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H			2.0
2 自然エネルギー利用				W		H			3.0
3 設備システムの高効率化				W		H	[BEI][BEIm] = 0.70		5.0
4 効率的運用									2.5
集合住宅以外の評価									2.5
4.1 モニタリング				W		H			3.0
4.2 運用管理体制				W		H			2.0
集合住宅の評価									-
4.1 モニタリング				W		H			-
4.2 運用管理体制				W		H			-
LR2 資源・マテリアル									3.0
1 水資源保護				W		R			3.0
1.1 節水									3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減									3.0
2.1 材料使用量の削減				W		R			3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R			3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R			3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R			3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R			3.0
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0
1 消火剤				W					-
2 発泡剤(断熱材等)				W					3.0
3 冷媒				W					3.0
LR3 敷地外環境									3.1
1 地球温暖化への配慮				W			ライフサイクルCO2排出率=72%		4.1
2 地域環境への配慮									2.6
2.1 大気汚染防止									3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H			2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.5
1 雨水排水負荷低減						R			3.0
2 汚水処理負荷抑制						R			3.0
3 交通負荷抑制						R	駐輪、駐車、荷捌き場確保		5.0
4 廃棄物処理負荷抑制						R			3.0
3 周辺環境への配慮									2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									3.0
3 悪臭									3.0
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									1.0
3 日照阻害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									1.6
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									1.0
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0